



図1. モンクチビルテントウ：神奈川県大和市産。A：背面；B：同腹面；スケール1 mm.



図2. 確認場所の環境。

末筆ではあるが、確認個体がモンクチビルテントウである可能性を最初に指摘くださった岩田隆太郎（日本大学）、本種の同定と概要、文献についてご教示いただいた松原豊（横浜市）、平野幸彦（小田原市）、大木裕（横浜市）の各氏に心よりお礼を申し上げます。

引用文献

- 今坂正一, 2006. 九州初記録のモンクチビルテントウ. 月刊むし, (425): 45.
- 石川 均, 2011. 静岡県初記録のモンクチビルテントウ. 月刊むし, (487): 46.
- Kaneko, S., 2013. Occurrence of the exotic predatory ladybird *Platynaspidius maculosus* (Coleoptera: Coccinellidae) in citrus groves in Shizuoka City, Central Japan: seasonal prevalence of adults captured on sticky traps. Appl. Entomol. Zool., 48: 189–194.
- 城戸克弥, 2010. 福岡県におけるモンクチビルテントウの越冬. 月刊むし, (475): 47.
- 松原 豊・上野輝久・佐々治寛之, 1998. 日本未記録のモンマダラテントウ沖縄本島に産す. 月刊むし, (332): 38.
- 佐々治寛之・谷口昌弘, 2003. 日本未記録のモンクチビルテントウ (改称). 月刊むし, (391): 13.
- 塚田 拓, 2009. モンクチビルテントウを沖永良部島と鹿児島市で採集. Satsuma, (141): 105.

(日下部良康 224-0013 横浜市都筑区すみれが丘 21-12)

【短報】ムモンチャイロホソバネカミキリの九州山地における古い記録

ムモンチャイロホソバネカミキリ *Thranium rufescens* (Bates) は、1884年に長崎を模式産地として記載された (Bates, 1884). その後、南西諸島の多くの島嶼や福岡県沖ノ島、甌島列島、九州南部から記録されたが、九州山地からの記録はこれまでなかった (大林・新里, 2007). 今回、筆者らは独立行政法人農業環境技術研究所 (農環研)・昆虫標本館に保管されている藤村コレクションの中から宮崎県西米良村産の本種の古い標本を見出した. 九州本土からの本種の記録は鹿児島県大隅半島に集中しており、本種の分布を知る上で貴重な記録と判断されたので、ここに報告をする. データは下記の通りである.

1♀, Nishimera, Miyazaki, 10. VI. 1954, M. Nakatake leg. (農環研所蔵標本番号 24-0477686; Figs. 1, 2).

なお、図示したように本標本には“*Thranium formosanus* Schwarzer”と記載された同定ラベルが付されている (Fig. 2).

引用文献

- Bates, H. W., 1884. Longicorn beetles of Japan. Additions, chiefly from the later collections of Mr. George Lewis; and notes on the synonymy, distribution, and habits on the previously known species. Journal of the Linnean Society of London, Zoology, 18: 205–262, pls. I–II.
- 大林延夫・新里達也編, 2007. 日本産カミキリムシ. 東海大出版会, 秦野市. 818 pp.



Figs. 1–2. *Thranium rufescens* (Bates). 1, A female specimen collected from Nishimera, Miyazaki Prefecture, Kyushu, Japan; 2, ditto, labels.

(榎原 寛 298-0002 いすみ市日在 2033-5)
 (吉武 啓 305-8604 つくば市観音台 3-1-3
 (独) 農業環境技術研究所
 農業環境インベントリーセンター)

【短報】三宅島で確認した南方系移入甲虫2種

伊豆諸島三宅島において、以下の2種の移入昆虫を確認したので記録しておく。以下、採集者は全て吉富博之で、採集地点の番号および各環境等の詳細な情報は吉富(2013)に示している。本調査は、科研費(24510333; 研究代表者: 小島弘昭)の助成を受けて行われた。

リュウキュウツヤハナムグリ *Protaetia (Pyropotosia) pyeri* (Janson)

土井(2013)によると、伊豆諸島では八丈島と八丈小島、青ヶ島、神津島での記録があるようだが、三宅島においても多数を確認した。確認地点は三宅島南部の海岸で、ススキの葉上などに多数個体がとまっていた。車に轢かれた死骸や飛び回る個体も多く目撃しており、同地では少なくとも数年

前から定着していたと考えられる。

10exs. (+ 多数目撃; 図1), 三宅島釜方海岸 [IZ61], 29. VI. 2013.

ヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera quadrimaculata* (Thunberg)

元来は沖縄島以南に生息する種であったが、九州およびその周辺諸島、本州(静岡県)において分布地が拡大しつつある(山元・和田, 2001; 酒井ほか, 2008; 瀬島, 2011)。伊豆諸島では、すでに大島と三宅島において2012年にサツマイモとその周辺に生育するノアサガオで発生が確認されていた(竹内ほか, 2012)。筆者はハマヒルガオ *Calystegia soldanella* (L.) Roem. et Schult. の葉上より本種を確認した。確認地点は2地点のみであるが、発生状況から考えると三宅島では海岸部を中心に広く分布拡大している可能性が高い。

6exs. (+ 幼虫・蛹を多数採集; 図2), 三宅島錆ヶ浜 [IZ58], 28. VI. 2013.

多数目撃(成虫・幼虫・蛹), 三宅島釜方海岸 [IZ61], 29. VI. 2013.



図1. リュウキュウツヤハナムグリ.



図2. ヨツモンカメノコハムシ(左: 成虫; 右: 蛹).

引用文献

- 酒井孝明・倉田章久・石川 均, 2008. 本州に侵入したヨツモンカメノコハムシ. 月刊むし, (451): 15-16.
 瀬島翔馬, 2011. 397 (Col.: Chrysomelidae) 福岡市におけるヨツモンカメノコハムシの記録. PULEX 日本昆虫学会九州支部会報, (90): 576-577.
 竹内浩二・嶋田竜太郎・沼田洋子・沼沢健一・嶋田 綾, 2012. [大島特産園芸作物における生産進行技術対策] ヨツモンカメノコハムシの発生と被害状況および防除対策. 東京都農林総合研究センター平成24年度成果情報一覧. URL http://www.tokyo-aff.or.jp/center/kenkyuseika/08/pdf/h24/26_1.pdf (2013年11月28日アクセス)
 土井 学, 2013. 伊豆諸島神津島でリュウキュウツヤハナムグリを確認. 月刊むし, (514): 20-21.
 山元宣征・和田義人, 2001. 長崎市周辺に定着した侵入昆虫ヨツモンカメノコハムシ. 月刊むし, (368): 11-14.
 吉富博之, 2013. 個人ホームページ. URL <https://sites.google.com/site/waterbeetlesofjapan/home/field-investigation/Collecting%20site%20in%20izu2.pdf> (2013年11月28日アクセス)

(吉富博之 愛媛大学ミュージアム)